



<発行>  
 南部合唱団  
 連絡先：〒214-0022  
 川崎市多摩区堰  
 1-22-1-416  
 TEL：044-833-6220

# 被爆70年節目の年 うたごえで運動をあげよう

団長 大井 かつ江



Byゆきもと

あげましておめでと  
うございませう。

今年は戦後70年、被爆70年の節目の年です。改めて戦争の真実を学び、二度と戦争をすることがないようになりと発信していく年にしましょう。安倍内閣は、昨年7月、アメリカが起す戦争に世界のどこであつても日本の自衛隊が武力行使ができるようにする集団的自衛権容認を閣議決定し、12月には国民

の目・耳・口をふさぐ特定秘密保護法を国会で強行採決しました。戦争の反省にたつて政府の行為によつて2度と戦争を起すことがないよううに誓つた日本国憲法を政府自らを変え、戦争への道を突き進もうとしています。

しかし、昨年末行われた突然の解散総選挙では日本共産党が躍進、沖縄県知事選では「オール沖縄」が勝利するなど、戦争を許さない、沖縄への基地の固定化を許さない国民の世論

はますます大きくなつていませう。

5月にはNPT(核不拡散条約)再検討会議がニューヨークで開かれます。「核兵器のない世界」へむけ私たちも声をあげ、行動していきませう。

東日本大震災から4年目の春を迎えます。26万人が避難生活を送っている中でいまでも10万人を超える方たちが仮設住宅での生活を

余技なくされていませう。福島第一原発の事故は終息にはほど遠く、未だに放射能汚染水の処理にも手こずっているのが現状です。ふるさとに戻れない被災者の方たちは14万人を超えています。昨年の福島の被災地視察の経験も伝え、一日も早い復興にむけてともに行動していきませう。南部合唱団は新春の旗開きの演奏で「冗談じゃない税」を演奏していきませう。生活を直撃する消

## 南部合唱団音楽会

# 風よ未来へ

—私たちの想いをのせて—

日時：2015年6月27日(土)  
 場所：大井町・きゅりあん

費税8%への増税や年金の切り下げ、社会保障の切り捨ても深刻です。様々な運動と呼応して、私たちは歌で運動を励ましていきたいと思ひます。

こうした思いを歌にたくして6月27日(土)、「風よ未来へ」と題して音楽会を開催します。団員の皆さん、音楽的にも組織的にも成功させませう。

友の会の皆さん、是非、ご協力をよろしくお願い致します。

# 新春から フルスロットル!

年が明けて、一月九日から演奏が立て続けに7本も!ダブルヘッダーの日もありました。例年のこととはいえ、一つ一つを丁寧にこなしています。殆どの会場で「憲法九条」の演奏を取り入れ、30秒ほどの短い演奏ですが、条文の横断幕を見ながら聞き入ってくれます。

今年は日本国憲法、取り分け九条の正念場の年となります。何としても守り抜いて参りたいと思います。



☆品川労働協旗開き  
力強いうたでえ最高!  
友の会幹事 中野 末則

今年も下神明の中小企業センターで品川労働協の旗開きがありました。労働協の集いには合唱団の力強いうたが最高です。女性の衣装が素敵で



1/9二つ目の演奏は「大田区労連」蒲田・生活センター

5歳若く見えました。ここでの演奏を終えて直ぐに大田労働協に駆けつける行動力にいつも感心させられます。大寿美さんと望月さんは残って、うた新の購読と演奏会への呼び掛けをしていました。うた新が増えたと聞きしました。

全国の労働組合員組織率が2014年6月時点で17.7%に減ったと発表されましたが、パートで働きに出る女性が増えたことから女性の組合員は13年から4万4000人増え

て303万4000人になったそうです。女性の組合員が300万人を超えたのは12年ぶりだそうです。労働協では、IBMのロックアウト解雇、日航乗員・CA組合の解雇撤回、東京測器の不当配転など労働組合・非正規の人を含め共に働く人の生活を良くしようとして活動しています。

今年も合唱団の皆さん頑張りました。○1月9日○下神明・品川中小企業大会議室



高砂自動車のいつもと箸を持って並んでい

高砂自動車のいつもと箸を持って並んでい

☆高砂自動車・新春餅つき大会  
例年通り、つきたてのお餅が楽しみな高砂の演奏。郷土メソパーは革を張り替えた真新しい太鼓の敲き初めと、扇の彩りが美しい新しい踊りで望みました。もちろん合唱団の演奏も大成功!

## 新しい「革」と 新しい「振り付け」 和太鼓南舞・ソプラノ

田中紀子

高砂自動車のいつもと箸を持って並んでい

○1月11日○目黒・高砂自動車

# 東日本大震災

## 原発ゼロへ「生業を返せ 地域を返せ」福島原発事故訴訟口頭弁論第10回 書記長 大寿美 幸子

三人の証言内容は①核・エネルギー問題

原子力委員会は、放射能汚染水の増加抑制として、原子炉建屋周辺から地下水をくみ上げ、放射性物質を低減した後、海洋へ放出する計画を認可。しかし地元漁民などは計画に合意していません。そうした中で、今月20日(火)、福島原発事故訴訟第10回口頭弁論が開かれ、原告側の求めで専門家たち3人が証言に立ちました。

情報センター事務局長の館野氏は、安全設計審査指針なしで、安全審査が行われており、非常用電源の喪失などに注意を払ってなかった事、過酷事故対策が著しく怠っていたことを指摘し、国の責任を浮き彫りにしました。

②福島子ども健康プロジェクトの研究グループの成氏は、原発事故後、福島県内に住む母子を対象に行った調査をもとに、放射線量だけで被害が決まるわけではない事、被害者に生じた生活の変化、放射線被ばくに対する健康不安などについて明らかにしました。

③沢野氏は、航空機モニタリングの測定結果をもとに、市町村ごとや原告の居住地ごとの放射能物質の汚染状況を明らかにし、原告の平

総生活権の侵害が行われた事を明らかにしました。



震災直後



震災前

### 辺野古への新基地許さない 横田にも基地はいらない 異常に訓練繰り返す日米演習

新年早々5日から9日まで、米軍が延べ150名の人員降下訓練(パラシュート降下訓練)を横田基地で実施する予定という通告が入り1月4日、瑞穂公園において、抗議集会が開かれました

横田基地におけるパラシュート降下訓練入数は、2012年1月10日以降、3年間で約1500名(年平均約500名)です。

沖繩の読谷補助飛行場では記録のある18年間で6878名(年平均約382名)。読谷から日米合意で移転し現在も訓練している伊江島補助飛行場の記録はありません。米軍が伊江島が不満で例外的に実施した嘉手納基地では14年間で307名(年平均約22名)。横田基地のパラシュート訓練は、あまりにも激しく異常です。

連日C-130が夜遅くまで飛行。

監視行動結果  
5日…人員降下は行われず、17時近く砂袋を二個投下。  
6日…風が強く午後5時雨。12時過ぎ2回(各5名)後ろのドアから人員降下。  
7日…晴れ、3名降下。  
8日…晴れ、日中は3名の降下。18時55分4名、20時40分4名降下。  
9日…晴れ。日中は砂袋2個投下。

